





信玄全集末書上巻之九

陣百下

- 一 吳國陣制舊法為十七ノ事
- 二 陣取軍法十二ヶ条并其控之ヶ条の事
- 三 陣取軍法十三ヶ条
- 四 陣取軍法九ヶ条并其控之ヶ条
- 五 陣中ノ水攻取法或ハ陣取ノ事
- 六 陣取ノ事并陣取ノ事
- 七 人取并陣取
- 八 右ノ人取小取

信玄全集末書上巻之九

九右之陈兵軍法又分象

一曰... 二曰... 三曰... 四曰... 五曰... 六曰... 七曰... 八曰... 九曰... 十曰... 十一曰... 十二曰... 十三曰... 十四曰... 十五曰... 十六曰... 十七曰... 十八曰... 十九曰... 二十曰... 二十一曰... 二十二曰... 二十三曰... 二十四曰... 二十五曰... 二十六曰... 二十七曰... 二十八曰... 二十九曰... 三十曰... 三十一曰... 三十二曰... 三十三曰... 三十四曰... 三十五曰... 三十六曰... 三十七曰... 三十八曰... 三十九曰... 四十曰... 四十一曰... 四十二曰... 四十三曰... 四十四曰... 四十五曰... 四十六曰... 四十七曰... 四十八曰... 四十九曰... 五十曰... 五十一曰... 五十二曰... 五十三曰... 五十四曰... 五十五曰... 五十六曰... 五十七曰... 五十八曰... 五十九曰... 六十曰... 六十一曰... 六十二曰... 六十三曰... 六十四曰... 六十五曰... 六十六曰... 六十七曰... 六十八曰... 六十九曰... 七十曰... 七十一曰... 七十二曰... 七十三曰... 七十四曰... 七十五曰... 七十六曰... 七十七曰... 七十八曰... 七十九曰... 八十曰... 八十一曰... 八十二曰... 八十三曰... 八十四曰... 八十五曰... 八十六曰... 八十七曰... 八十八曰... 八十九曰... 九十曰... 九十一曰... 九十二曰... 九十三曰... 九十四曰... 九十五曰... 九十六曰... 九十七曰... 九十八曰... 九十九曰... 一百曰...

信玄全集来書上卷之九

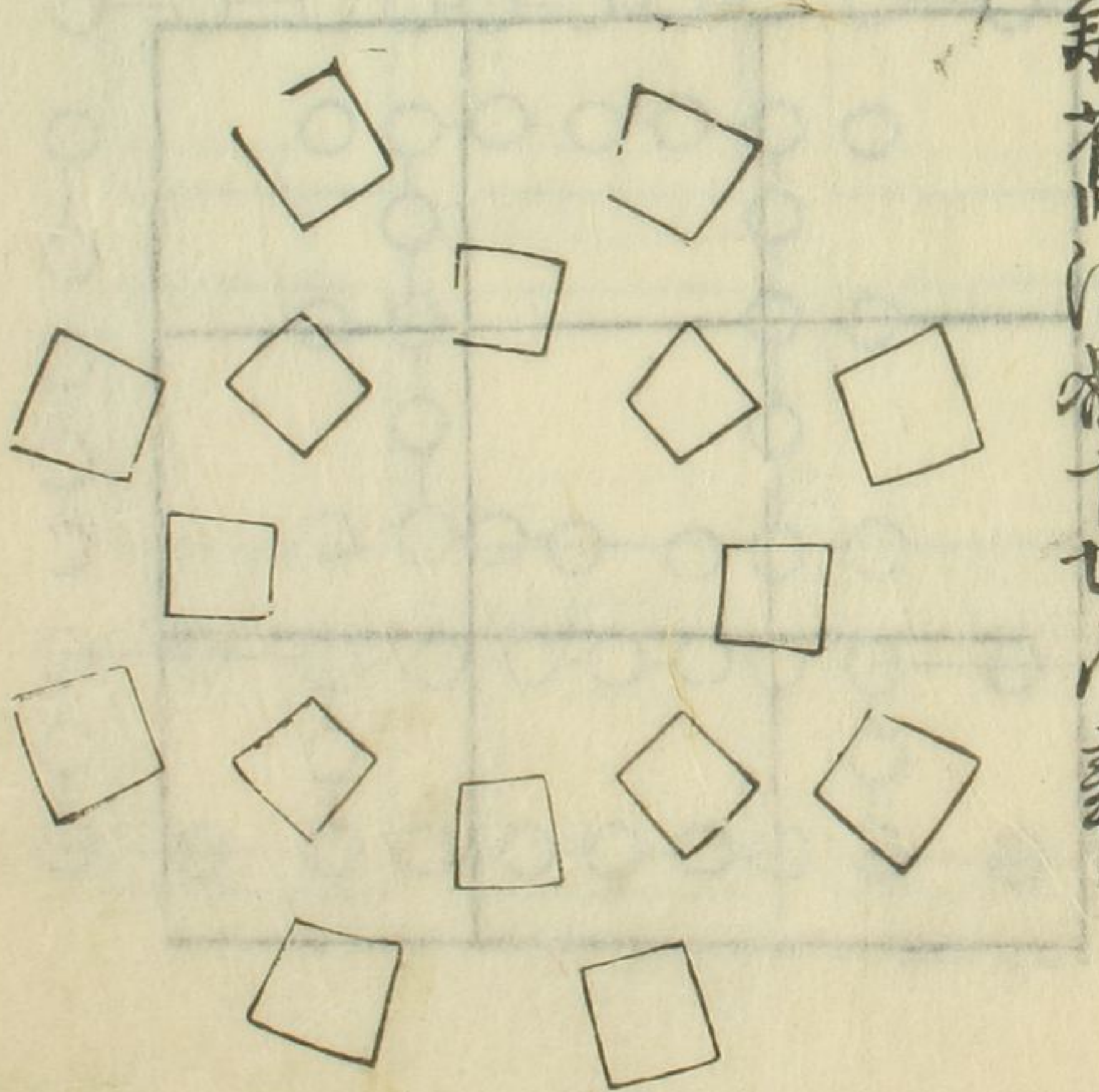
陈取个

○一 矢國陣制舊法漏十七の事

矢女

黃帝握奇

營衛



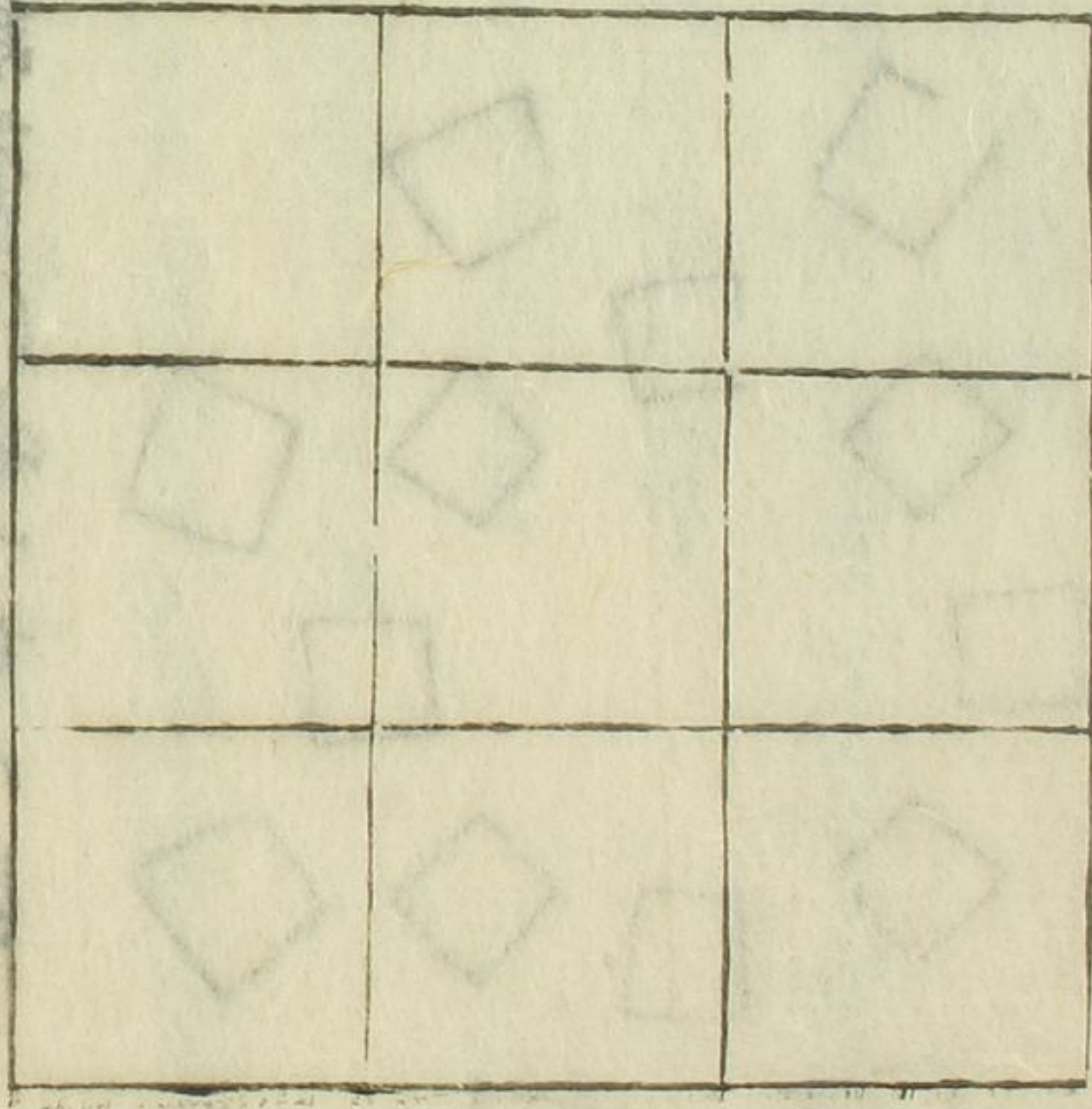
太公因市

教德也

一

信玄全集来書上卷之九

太公開方
教閱五
行陣



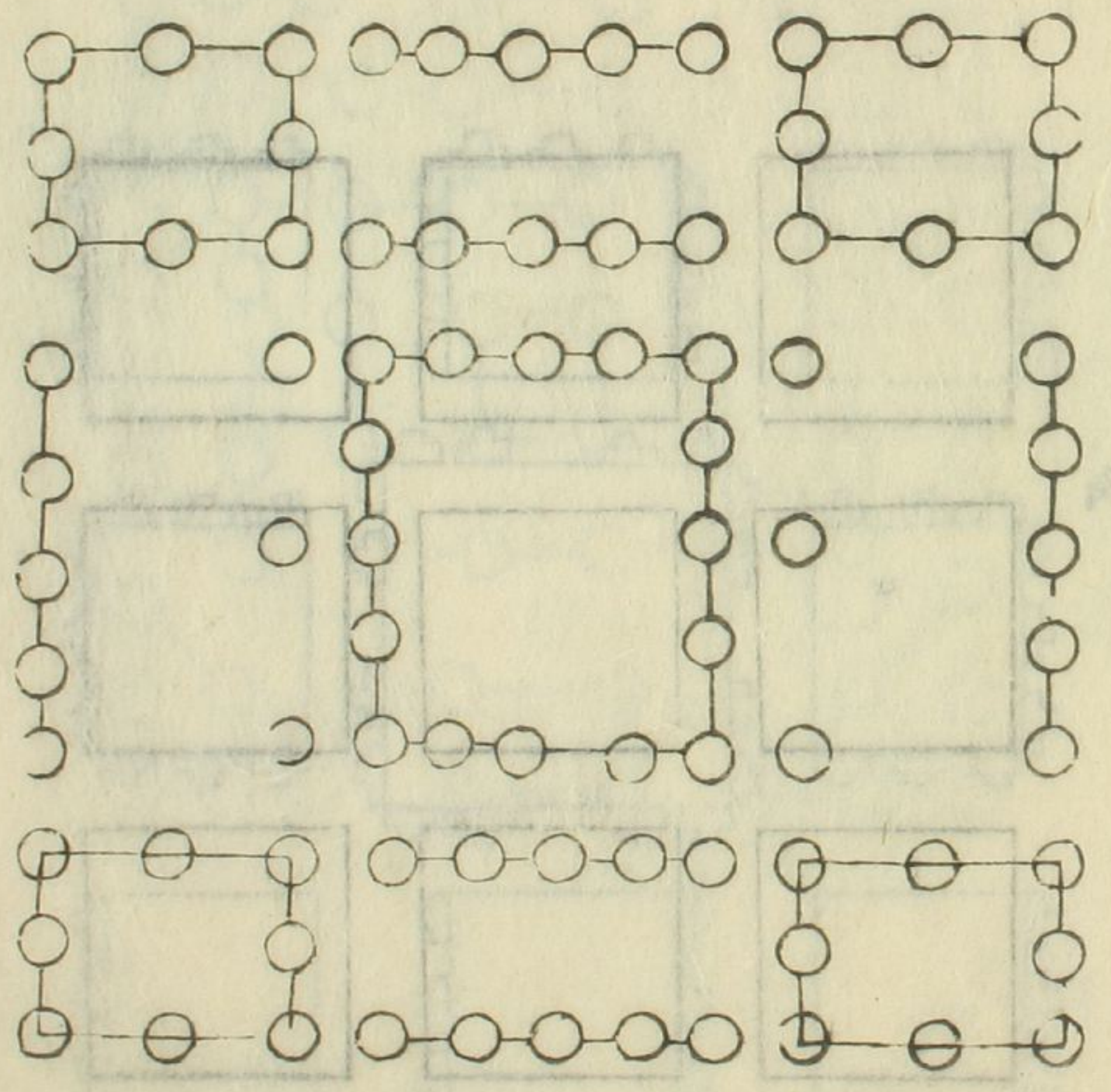
二

太公開方
教閱五
行陣

芒管仲
用攻
陣

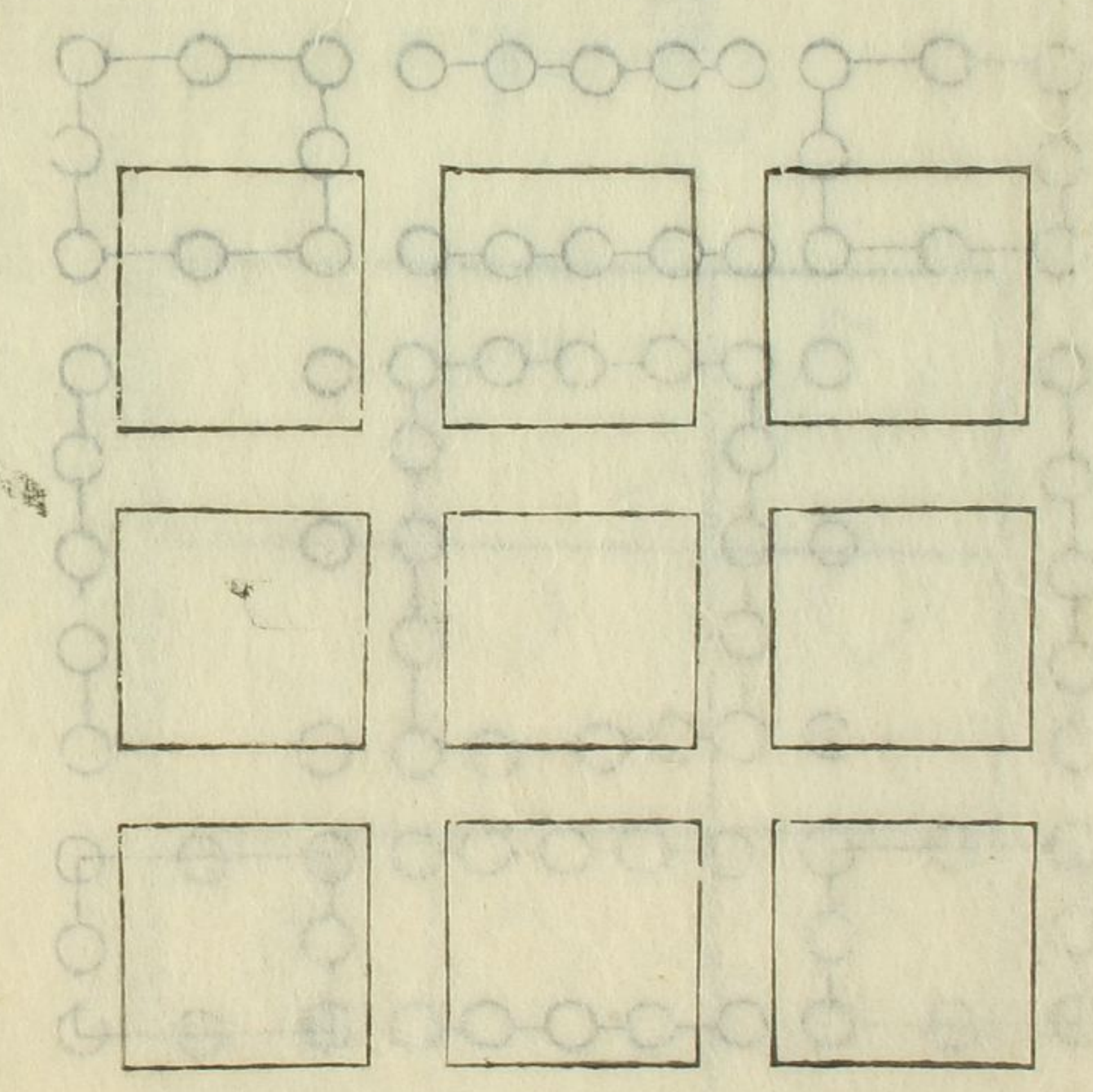
三

太公
教閱
三



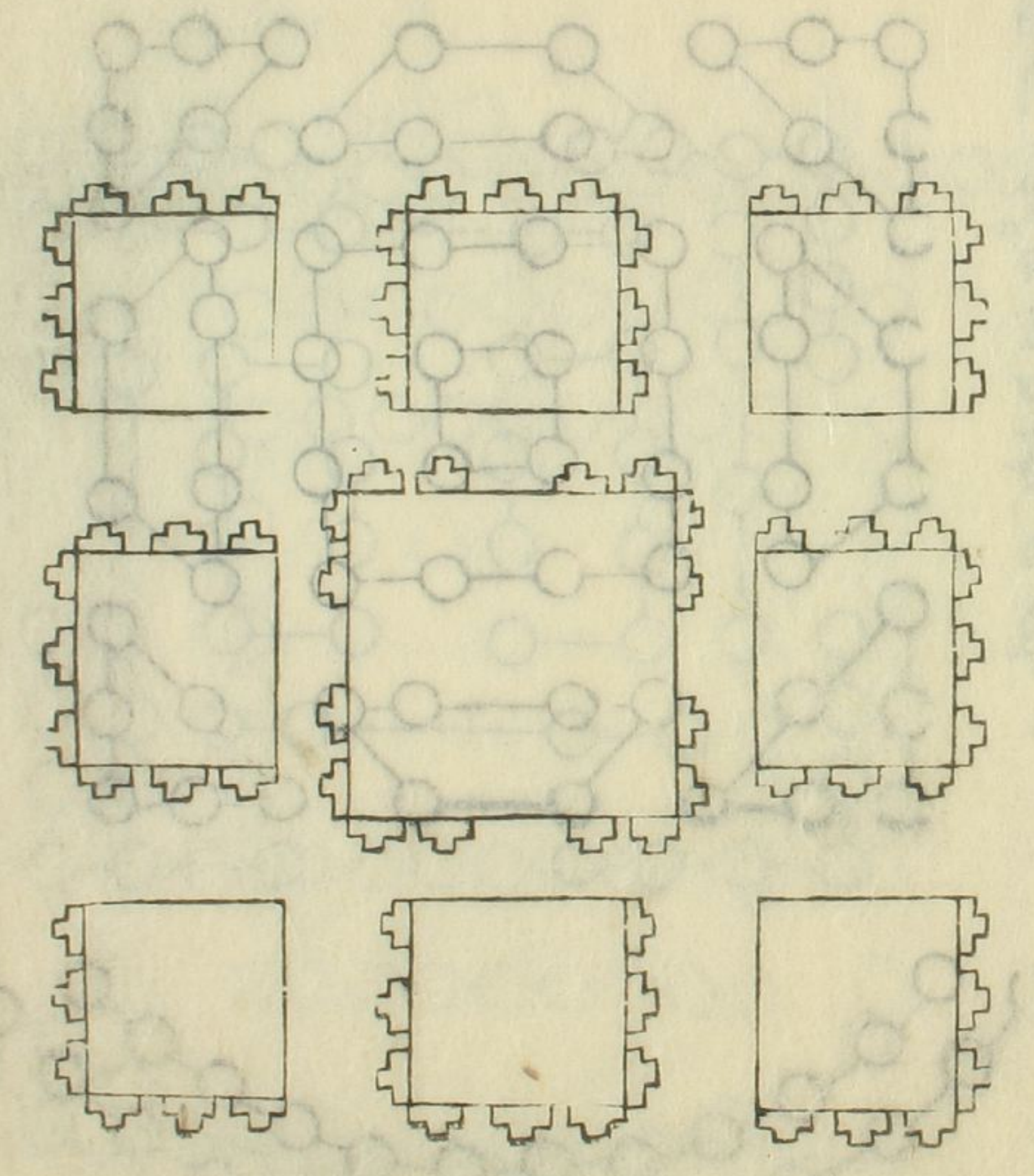
太公開方

太公
增早
行為
三戈
陣



司馬
握奇
之營

五

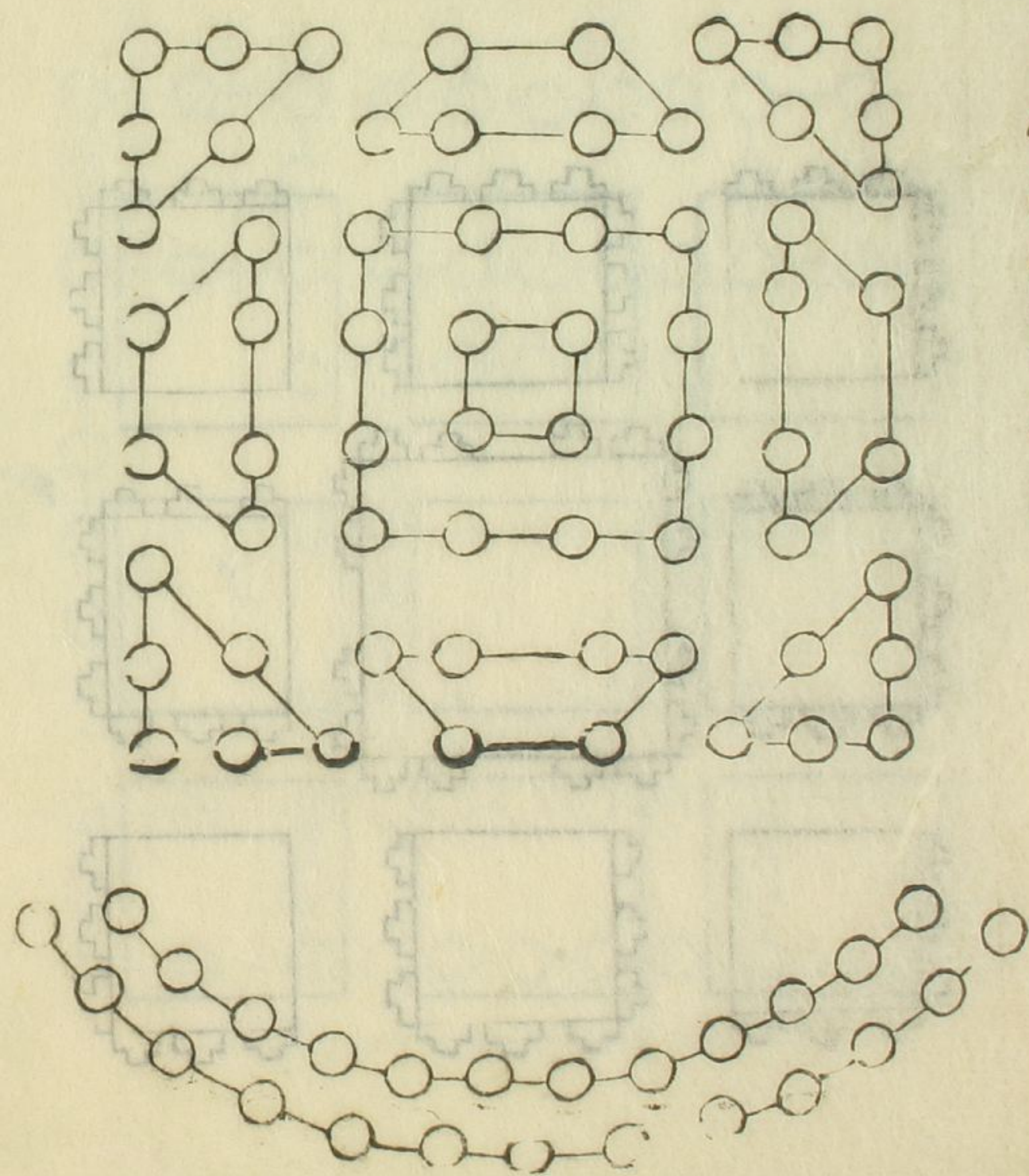


高麗書卷之八

全譜抄用書卷之九

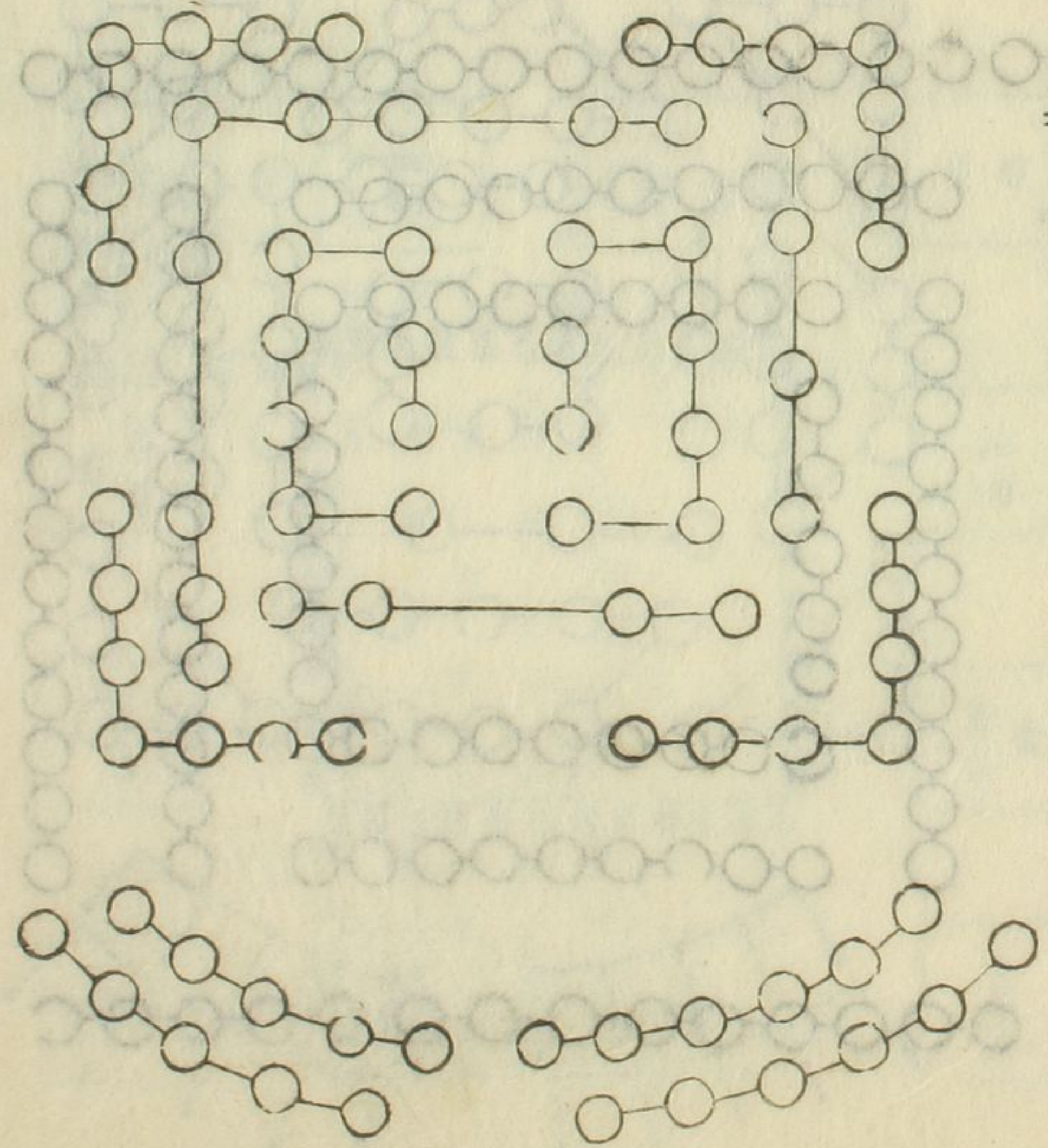
諸葛亮魚復江八陣之圖

六



一八陣向分四正四奇四冲

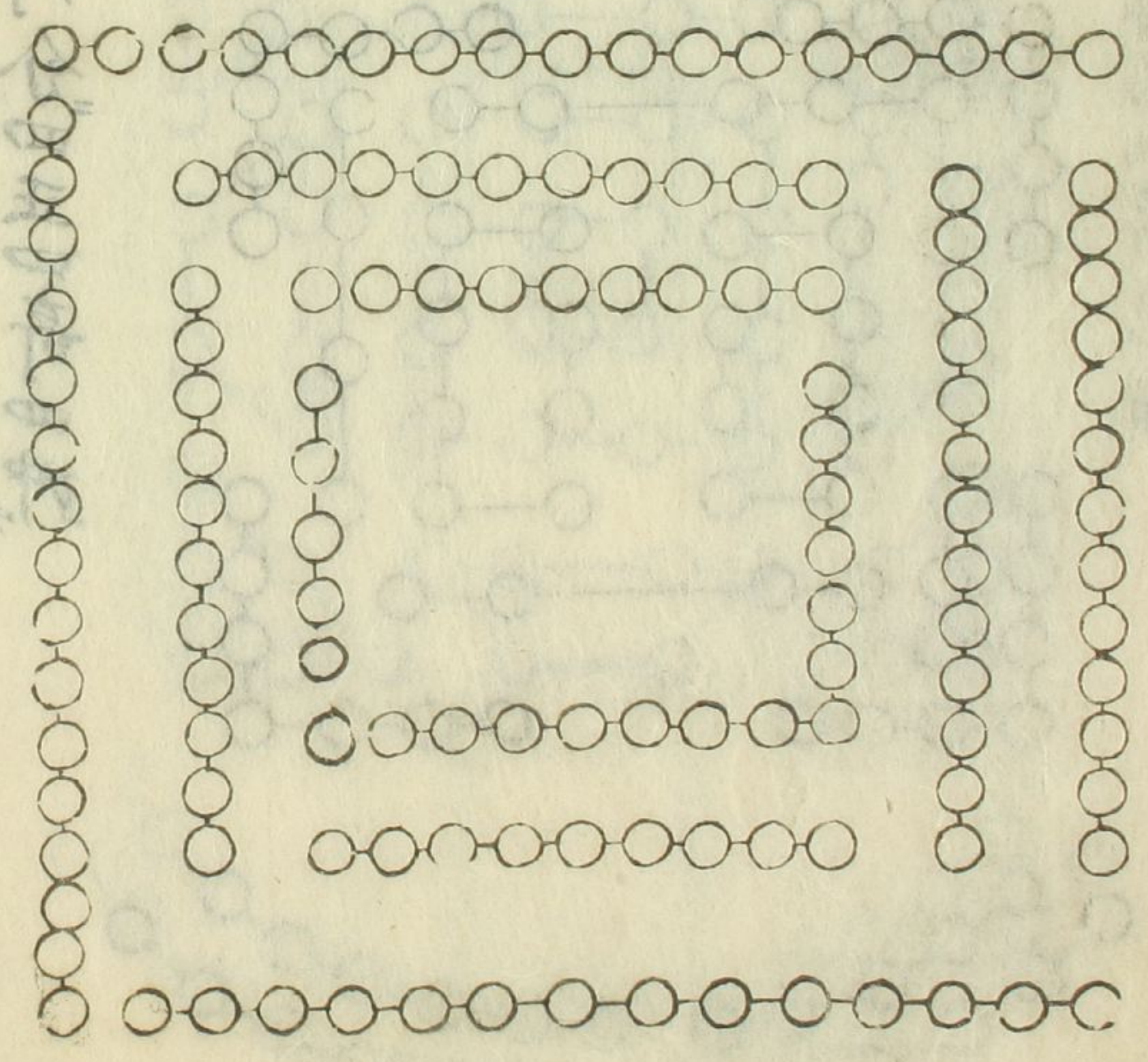
七



馬 隆
扁 箱
車 營

八

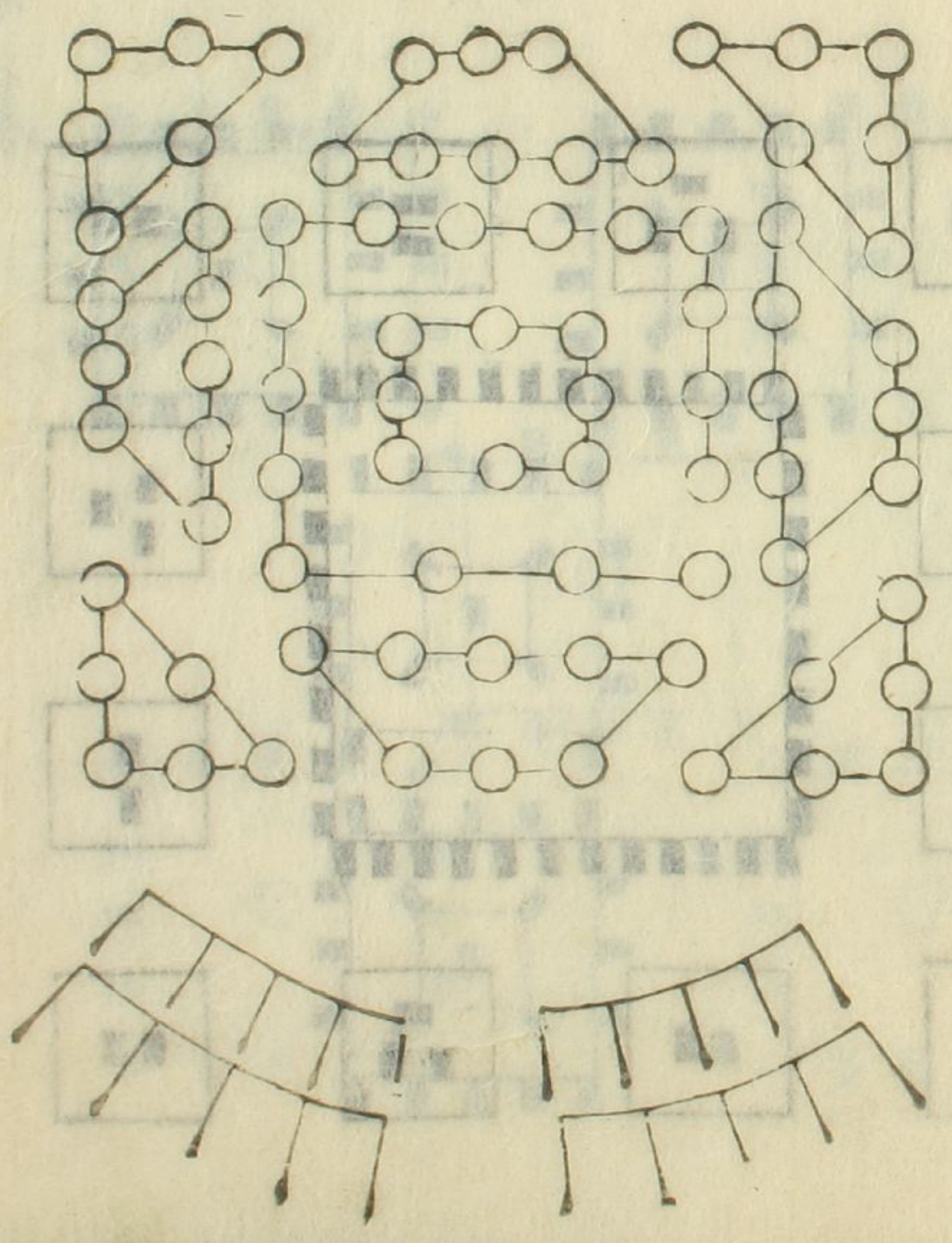
一八判論



一諸葛亮八陣為六舊法圖

九

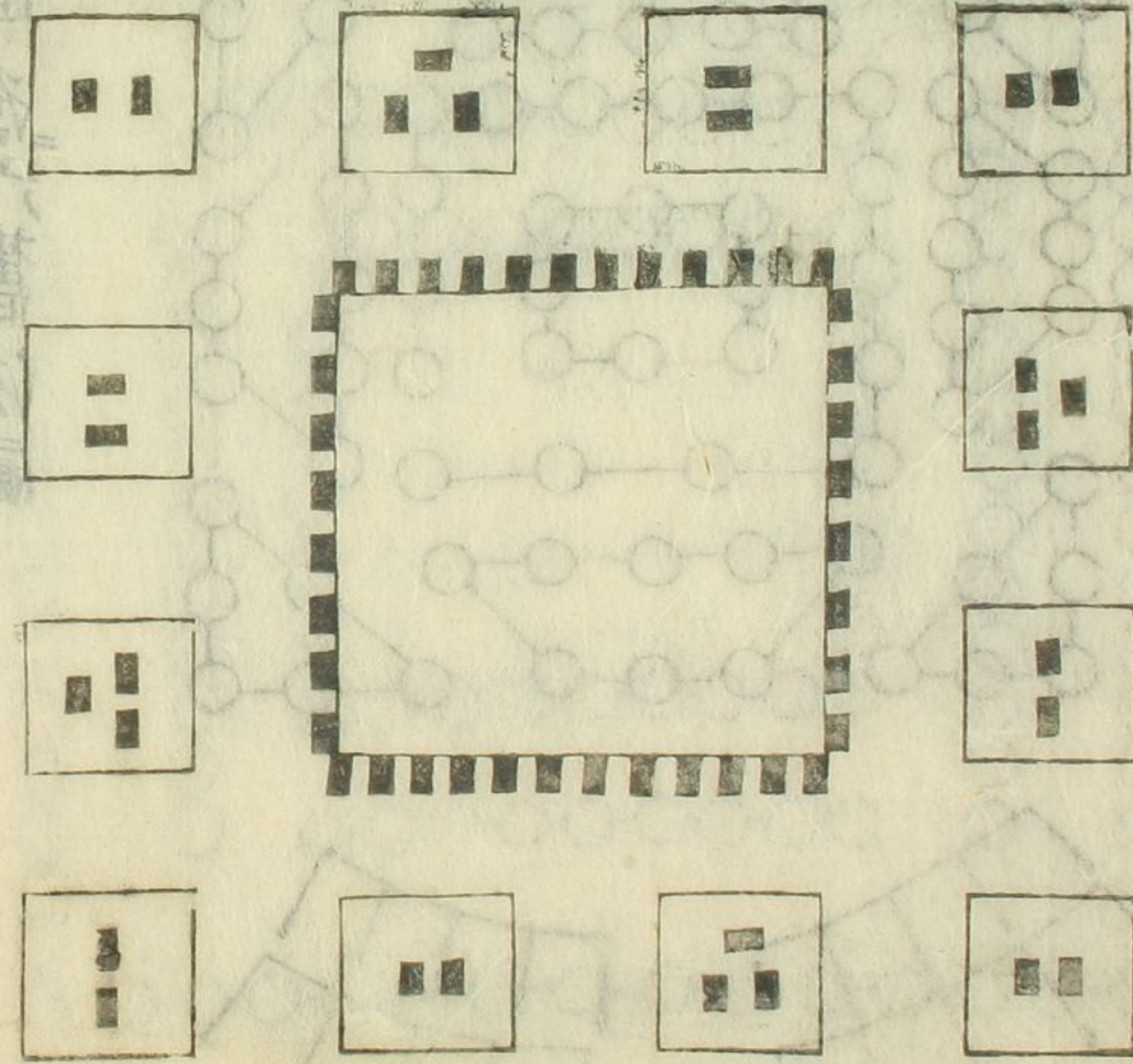
李守齋
十二氣
判



李靖
十二辰
陣圖

十

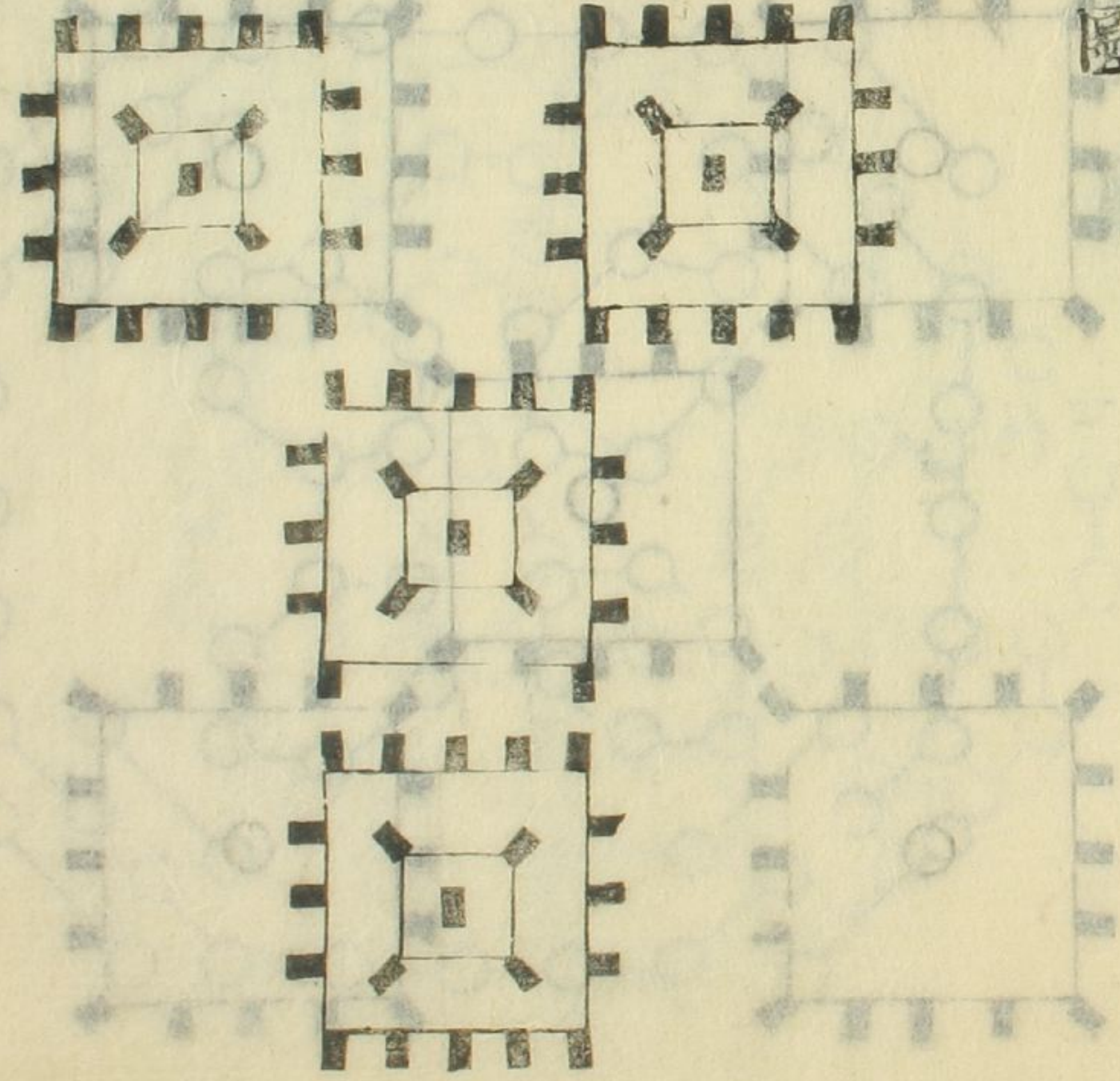
續通志卷之六



晉四軍陣圖

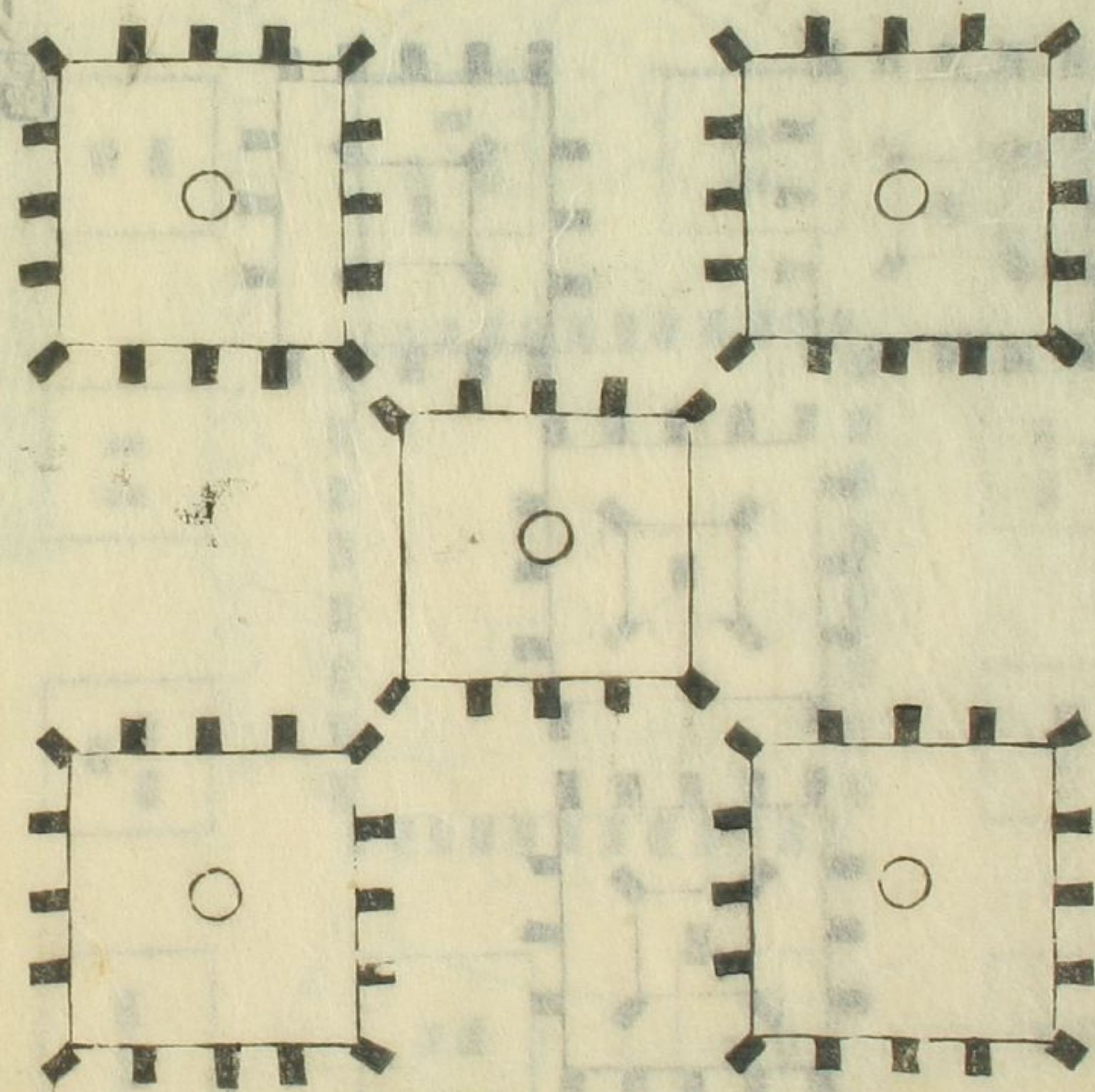
十一

晉五軍陣圖



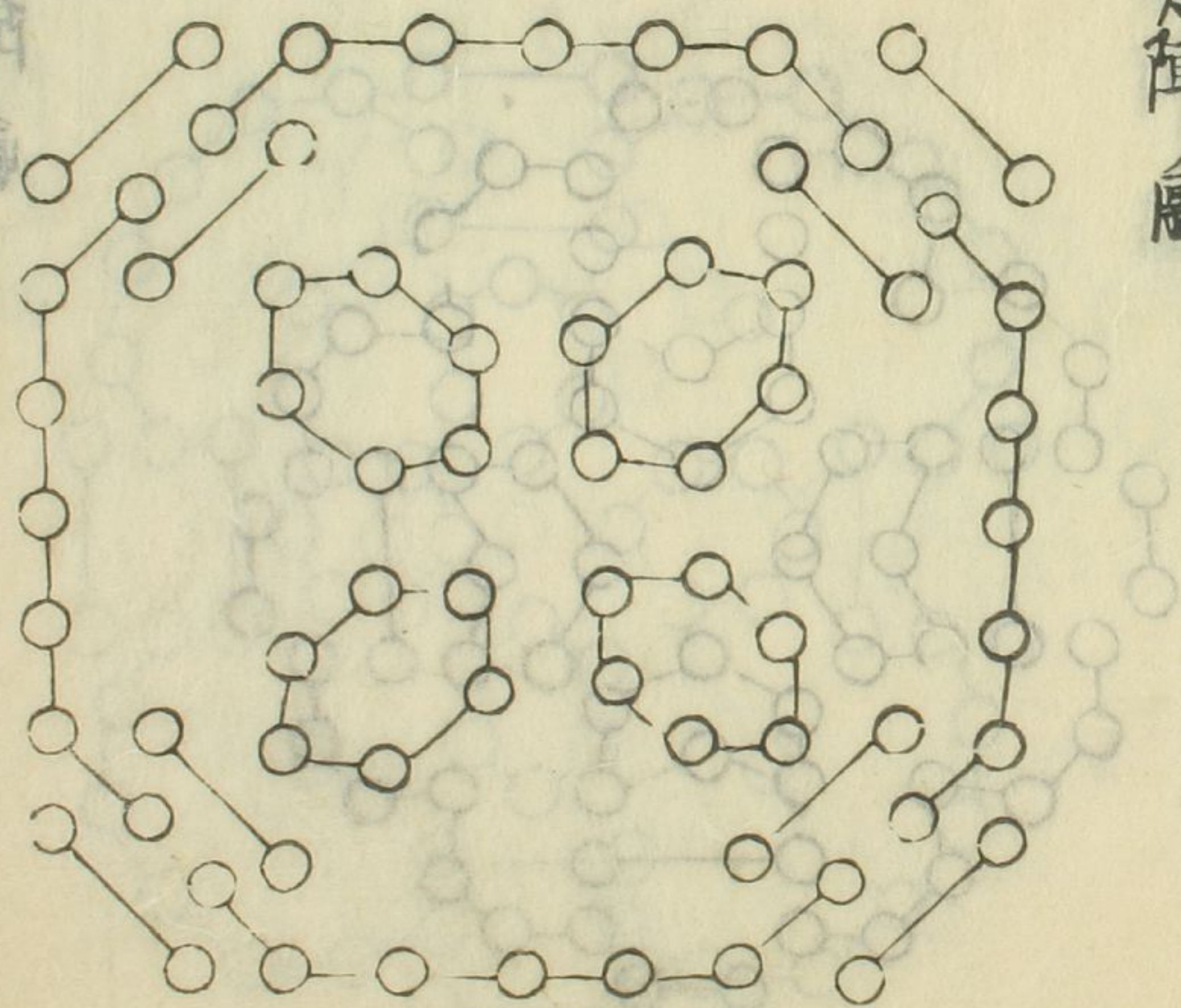
一晉五軍之圖

十二



一諸葛亮方陣之圖

十三



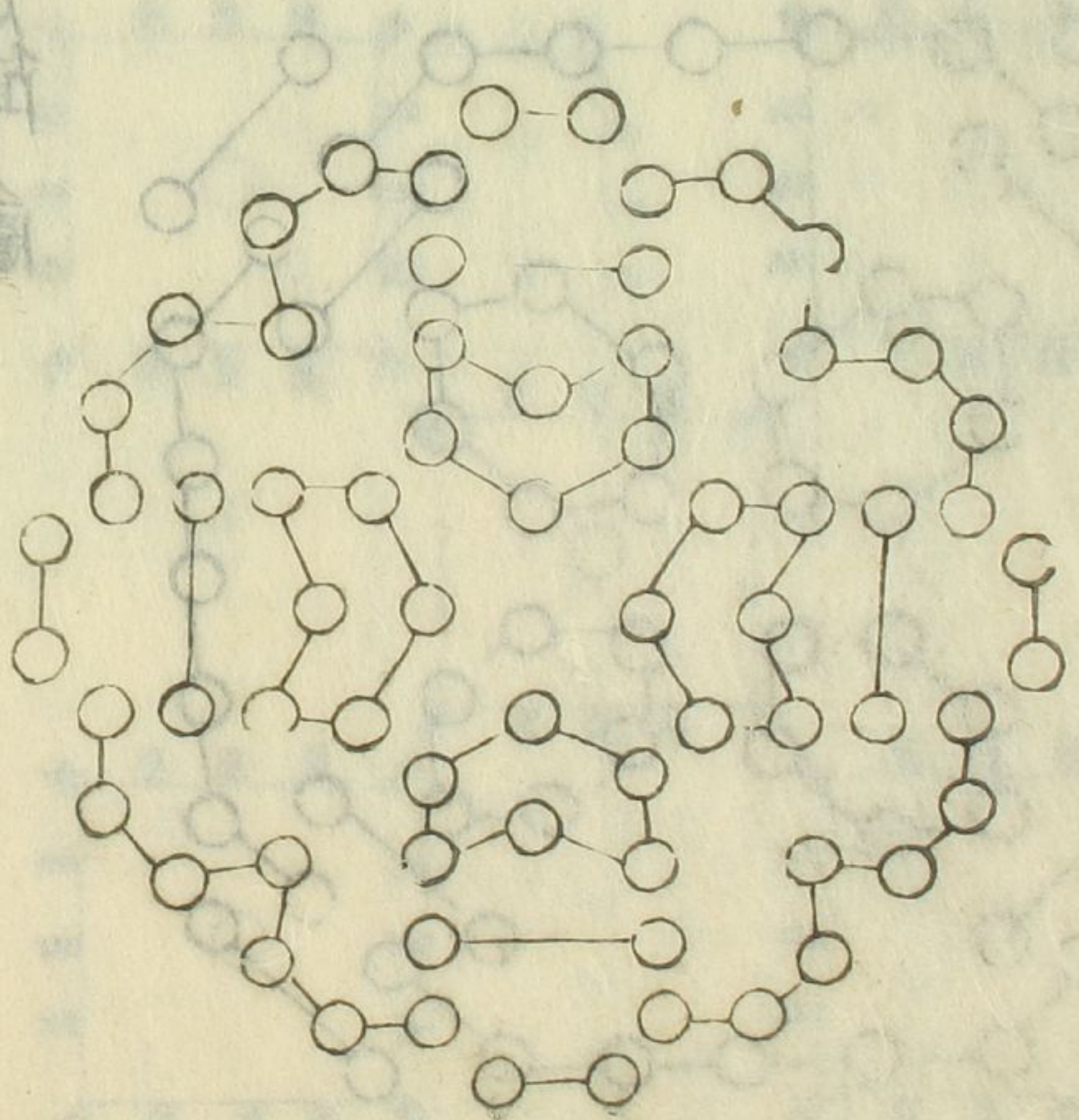
一諸葛亮方陣之圖

一諸葛亮方陣之圖

一諸葛亮方陣之圖

一諸葛亮曲陣之圖

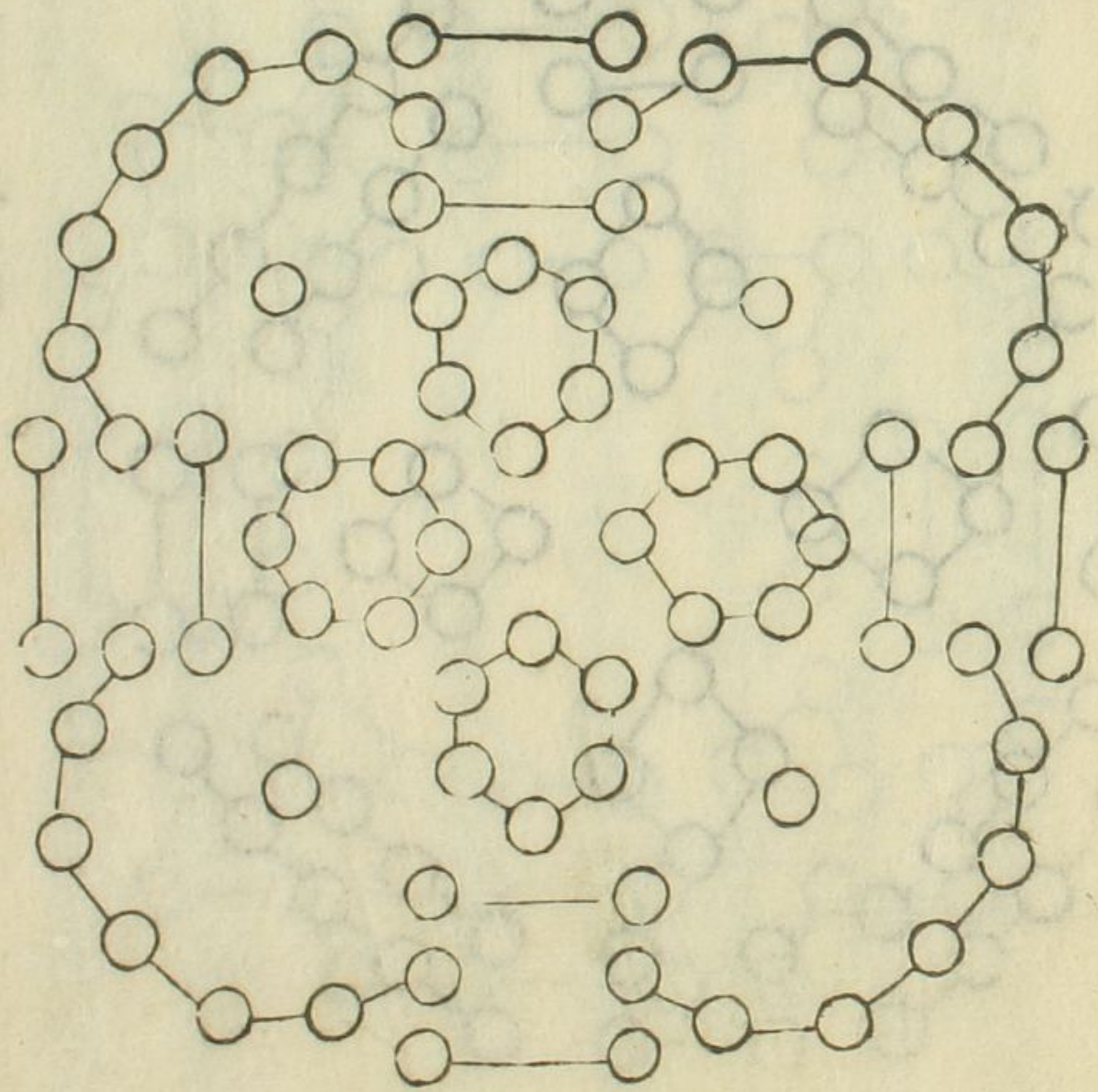
十四



諸葛亮行軍圖

一諸葛亮圓陣之圖

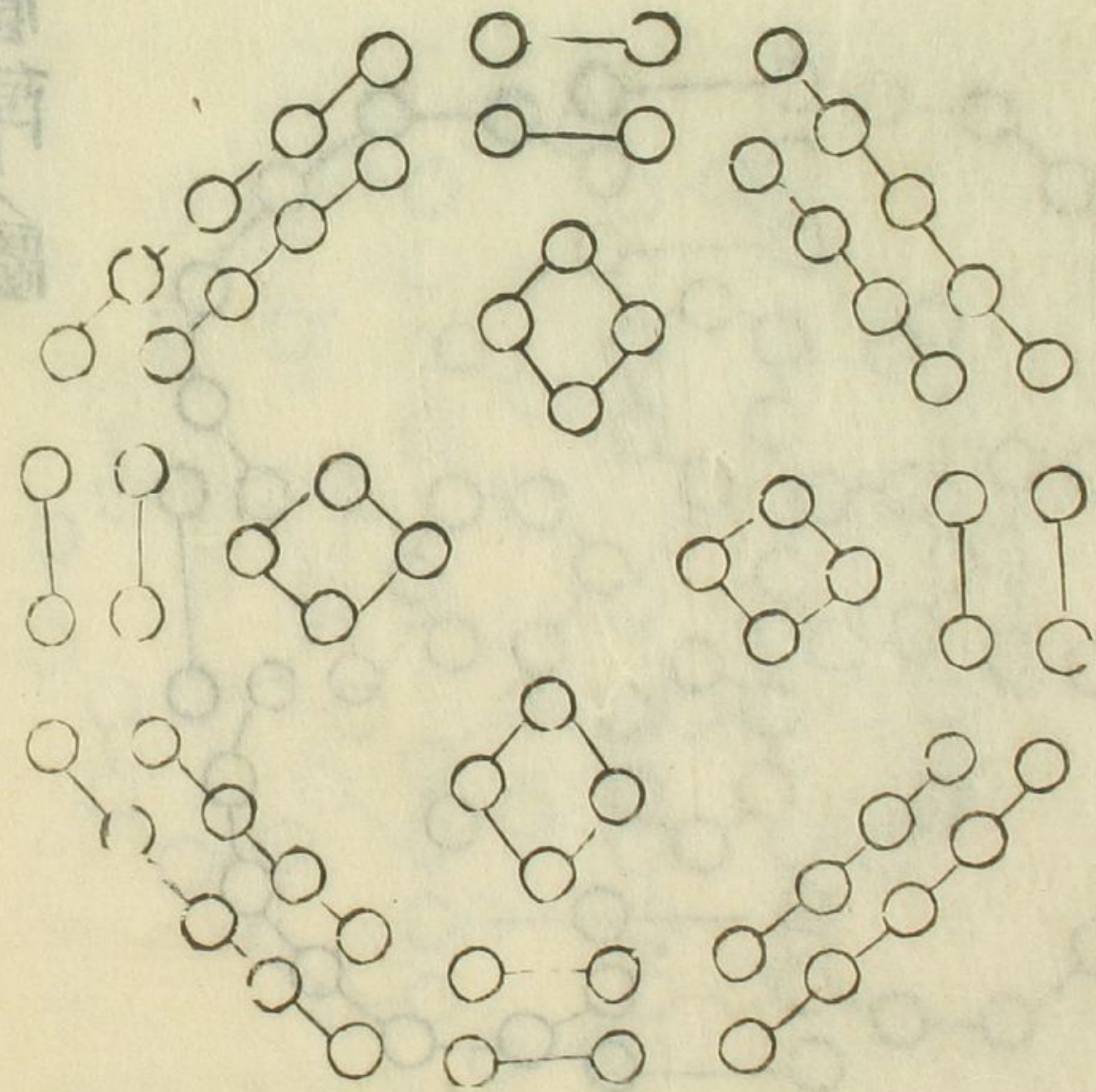
十五



諸葛亮行軍圖

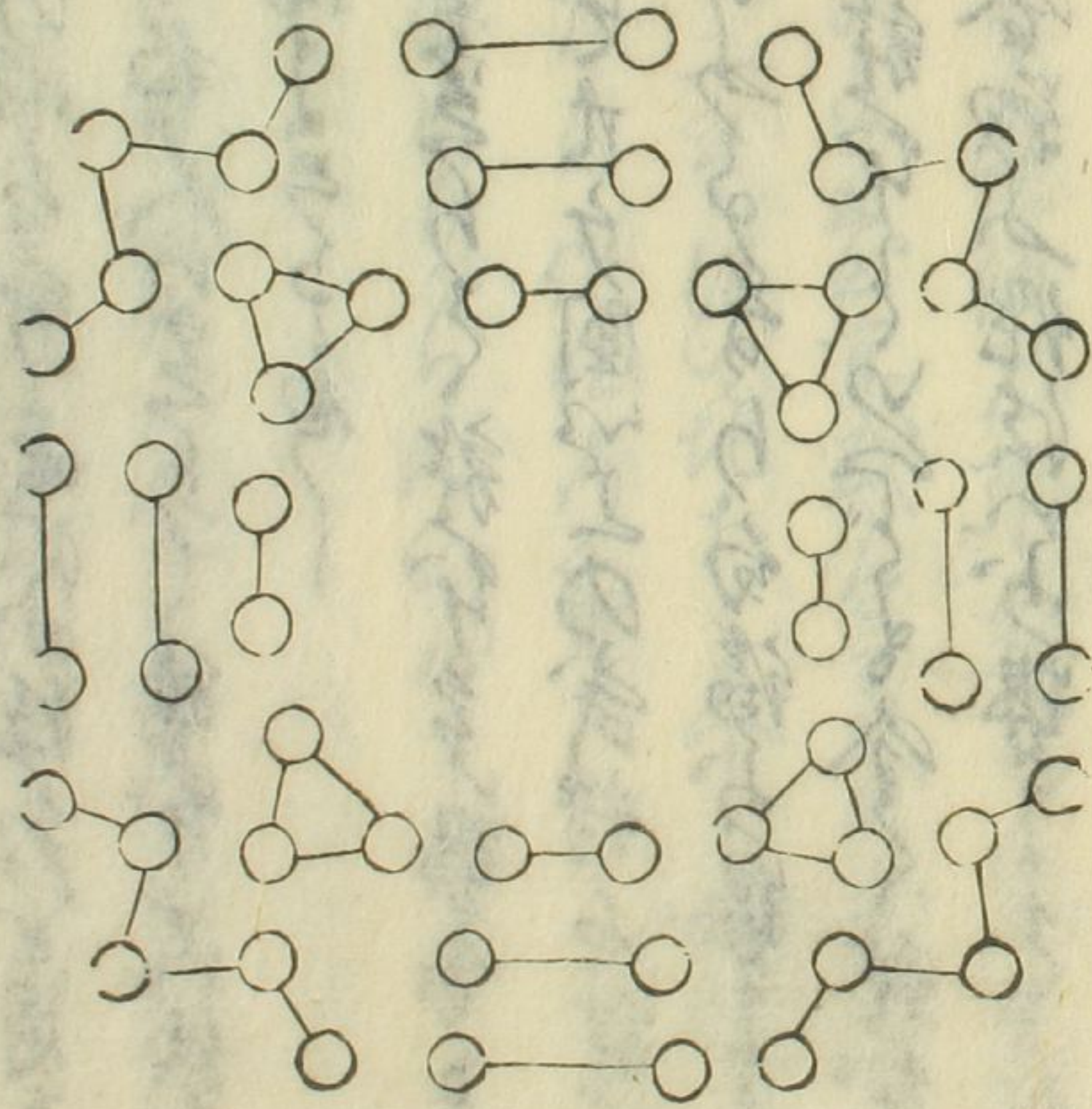
一諸葛亮直陣之圖

十六



一諸葛亮銳陣之圖

十七



○二陣取軍法十三ヶ条乃り

一人取少勢の時を守るは小陣取と用ゆる一又
國取を初く初人の定りて陣取大由の二ヶ
ヶ時は大陣取と云ふ也

本書と定りて陣取多勢あるといふは
はわくもどれヶ國以上の武將を陣取と云ふ
由るといふあり向編少勢といふも大
勢乃陣取と云ふといふも合く陣取と云ふ
由と組合取の陣法は少勢といふも難付
事なり

二方取急取ありひる三處その陣乃くつらひ

める程もくもくつらひつらひを他より人ま
そのなり

三陣取乃りけやう後後志可至るべく事

四陣取たるとわりの基可成るとる處は仕可本書より
はたふる二軍はの塊あるべし陣取
はたふる舎陣取ありとるは陣法なり事

五陣取くさわび肉りからゆい處うわらふありの
事なり乃事

六陣取惣由より陣取あるべし陣取の介ある七
由のべしつらひよく中陣取事なり事

陣取を條取じつら計りるよ中陣取あり

く事危し本書に就おのうちしそ

七 徳卒勢の向く徳中陳小向くう川 徳中の内原
は小倉の法

年を神女原にむかひ小倉とくれい藩のあつ
な降し向くことういふるしは法書 沖幕幕の内

長柄或は湯物徒由難なり乃介は法軍に能指お

出物物徒等とて不可飾事

右に道具せむに陳をよ撲く人とうんを難敵

破へし糧さへ小倉乃肉ふばりて至と古人乃

張

八 大軍の陳を右と各者ありて南番は右を

定らる事

九 陳を取かくてあて後刻札と事とて法法度可

あ事

十日是は本筋と燒筋貝取ありて時中わらひ

南番乃浅者なりより相綱とうけく法軍(編

字さるるありお綱あへく捨筋取焼書入と取へ

十一 陳拂と北番の小筋筋なり可法法之り又お筋

ありて小筋筋なり乃後法之時と事なり南番

後法に於ては後と勅書にたり

わら程少摺りて小筋筋なり略とるにあり

士大將の初々と是將大將なりなりと事なり

つは後法に後陳拂の後小筋筋なりなり

とらるるに

十二 陳可制札并依法度

一 檢二三ヶ条乃事

一 陳中大事令抄書をその陳内より於て圖と云は

一人可為死罪事

一 馬汲江敷をその阿くいそるまより可おる料事

一 陳中不淨をそのいそのと云より可出造料事

右に檢二三ヶ条と云書の下く又ヶ条より

は次の陳中依法度十二ヶ条を略して可也

陳中此法は雜人の字知安氣と云くとも其の

ヶ条多け其は下人疑懸して苦心故に常

よりく教

異本 陣中諸法度十二ヶ条

一 陳中常守軍法、道邊可道大將之下、知能令敵

陣、無視必勝之理、密告將、於其旨、教、可也、其

旨、事、自、合、我、是、此、法、度、以、我、有、私、意、相、違、者、不

獲、者、然、止、私、批、判、或、用、目、安、或、以、改、其、以、可、其、事

旨、事

一 以軍之陣、其、以、列、其、法、度、可、如、定、之、或、於、用、之、者、而

素、伏、覆、以、止、必、可、忘、序、破、急、也、教、事

一 若、陳、之、制、者、能、其、以、其、更、令、制、者、其、用、之、者、猶

二、難、而、更、勿、能、忘、陳、之、旨、可、其、以、法、事

一 其、軍、在、討、敵、之、定、其、如、定、式、用、陰、陽、之、法、之、事、而

可相約下知事

敵事之合戰其之約定無事也陳亦不後合
格之成也
かゝつても働く者

宣戰以後中より復籍を定むる能はず陣甚烈可
拒之別陣別軍之軍令如法堅固を不意に奪取
而慢之其合を場可相約下知事

嘖々言者有為私忘公義双方可為死罪事但堪
惡談者為公義忘私可為忠事

於戰傷重故宗子守通交性自不復以能地
之陣難成自己切名可准及逆料事

陳中酒氣迷其亂亂言聲禁心之并於後下敵
強味方弱批判堅傳心之事

昔日良存身瑞好快活不可言言之更
自敵送音信物之納受之子細可言上事

陳中食物不別上下并嘉肴美味堅禁制之
但非時之食者常可用意事

自稱功名實敗日願負偏頗之少區之毛又大料事
合戰勝利之後札取禁制之但有下知者遺雜人
執取之各堅可守之不事

○三 陳取食切九ヶ条あり
山ありよんといはく魚

二 ながれむら川原石交或と流の上より砥付介
 三 山よりうら砥付介
 四 川原より砥付介
 五 人教乃大木よりうら地敷より砥付介
 六 刃切石或いかりを教味方けをよら砥付介
 七 山中へ極楽池より事
 八 外張逆茂木遠の土井がわら捨町のまら
 齋りよりりのうら事
 九 深淵のせ久倉大竹つらう海(海)大木の教乃松
 子或をみるより砥付介と刃切石より
 月の徒略なり

○四 陳場を葉又ヶ条のみ
 一 ちう
 二 介張
 三 逆茂木
 四 柵のまらうとら河を付りより人とり河を
 むらうら
 五 ちんあぐのきう肉りらうら云井藤垣サ、ニキ
 ○五 山中より水汲石或と陸奥砥付介を控
 三ヶ条の事
 一 流橋よりうら右の流細くは川下より水くまら
 倉記る

二陳果取魚以買之 一番先命

二番二命 三番收復小岳莊

四番右脇海 六番首領 六番殺命

七番將軍

三批取之先以買人多不可不文集前之
心以之軍師之其海之入去也
又可改事

○六 陳揚乃安并陣至割漏

一馬正七百又十餘人殺難共大走可八百十四人

以陳在四千又百六十九日大將乃中陳武拾百四

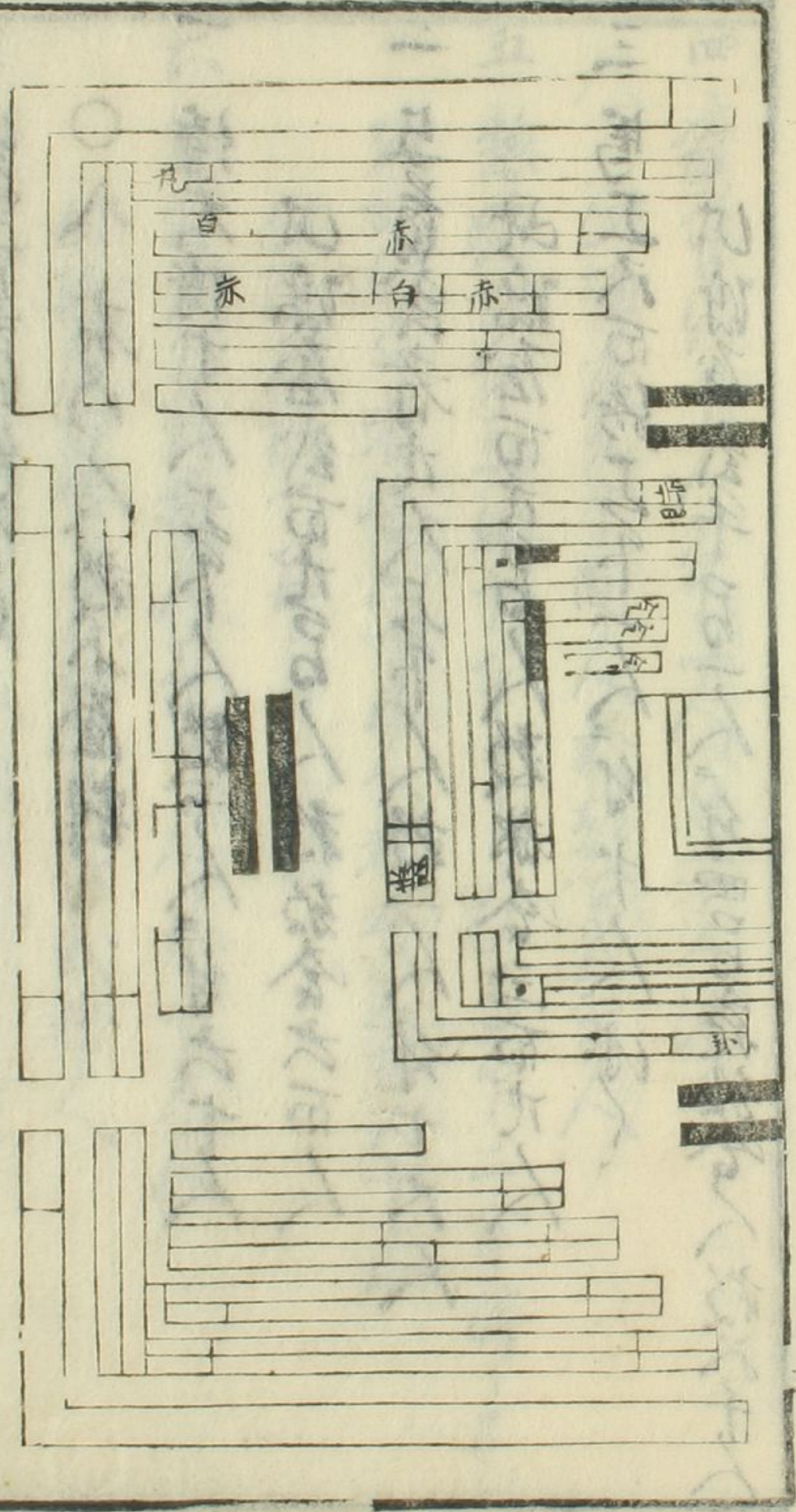
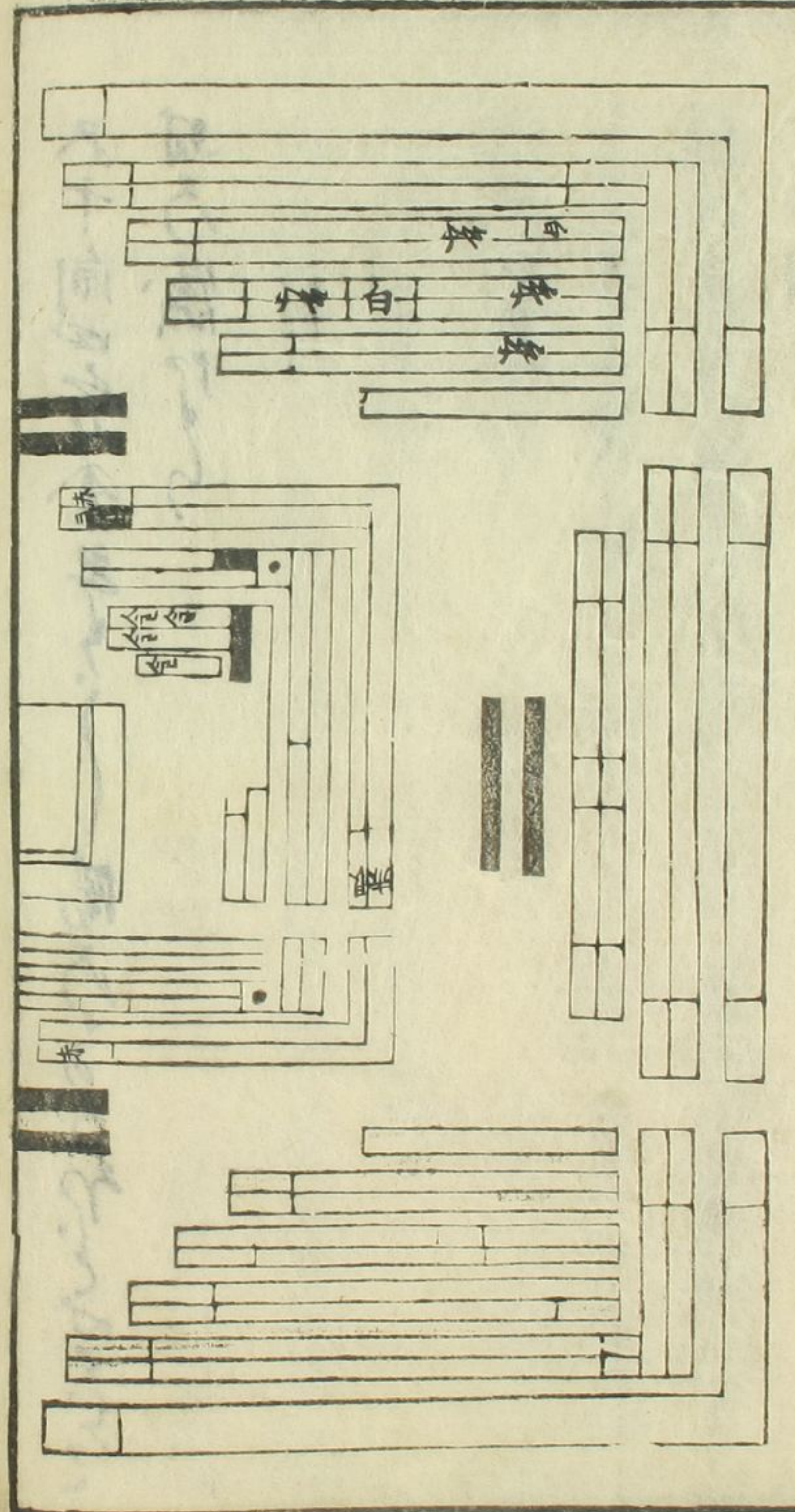
分陳酒之之わけをよ右み新乃陳安而

又十向四方余事より一陽乃のちと
時乃儀なり

欽定四庫全書

禮記

陳為



Handwritten annotations in blue ink, including the characters '赤' (red) and '白' (white), which likely refer to architectural details or colors. There are also some faint numbers and other characters scattered throughout the page.

○七 人教并陈臣割

一 外十与 赤二与八一先 黄二与八一先

黄土二与右一乃眼 烧黄土右右一乃眼

紫二与右右一乃

○八 右乃人教小臣割

一 侍大将十人 上京人教一人 付六十人

以陈臣百九百八人 教教合六百八人

二 与首者九人 上京人教一人 付十人

以陈臣百九百八人 教教合三百九人

三 馬上及百騎上下一人 付十人

以陈臣百九百八人 教教合六百八人

四 總領百十人 上京一人 付十人

以陳臣百九百八人 教教合六百八人

五 惣領百一十人 上京一人 付十人

以陳臣百九百八人 教教合六百八人

以陳臣百十人

六 是將大將武拾人 上京一人 付十人

以陳臣百九百八人 教教合六百八人

七 是將七百武拾人

以陳臣百九百八人

八 長柄百十人 上京一人 付十人

以陳臣百九百八人 教教合六百八人

九長柄約三百人

以陳倉百員

十員在教習以武拾人廿員以抄日者二十人
役人上下六十人人教於倉百四十人

以陳倉七十員

右十餘人數都令八千武百二十人

陳倉都令三千百六十員

○令約大物 ○銀組頭 ○白鐵 ○都令百員

糧大物 ●使使者

△能下人教候并陳倉割之軍

○黃黃道醫 ○紅黃步以同軍 ○朱金鐵

足物大將 ○為青黃物是糧大物 ○志朱

○黃色因付模用 ○以素文押在教員役人

○查大身以 ○開文由乃命 ○銀長柄以

○思者醫者茶道細戶右老 ○燒黃土步以用付模用千員

○白八子屋旁 ○書太工余細工人卷五人腰

○一以習而九人卷人 自上下拾人馬二建系馬

卷合人數百武拾人 以陳倉三百六十員

○二以習願六人上下人數卷人 自九人又起卷

卷合人數百武拾人 以陳倉六十員

○三六身以六人上下人數卷人 自九人又起卷

自右教員乃役人上下十四人 又三建

初合百三拾四人

以陳應六十七日

四使委者拾貳人上下人教一人身正人馬地

郡合貳百肆十人

以陳應八十四日

五使委者拾大拾六人上下人教一人身正人馬地

初合九十九人

以陳應四十四日

六使委者百拾六人一組身正將成人身正固自始六人

馬四起人吏四人

初合貳百肆十人

以陳應七十二日

七使委者將大將四上下人教一人身正人教三人

案馬吏馬九

初合六十四人

以陳應廿八日

八使委者將百九人一組貳拾八人身正乃警固

吏馬四起人吏四人

初合百廿六人

以陳應四十四日

九使委者將貳百上下人教一人身正人教三人

案馬吏馬九

初合三十貳人

以陳應十四日

十使委者將七十貳人身正貳一組身正杏柄三十廿初

者三拾人身正六人身正六人身正六人

初合八十四人

以陳應廿六日

十一使委者將百上下人教一人身正人教三人

案馬吏馬九

那合九十六人

以陳歷四十式日

○十二小姓十六人下下人數七人付十人免馬三也免馬

那合百六十人

以陳歷六十式日

○十三步沙士以八人下下人數二人付十人付三也

免馬三也

那合八拾人

以陳歷三十式日

○十四步沙士百人下下人百人免馬四十也人免四十人

總付上中下四十人免馬又免免

那合貳百四十人

以陳歷六十式日

○十六小姓之免貳錢上中下人一人付十人免馬三也免馬三也

那合三十二人

以陳歷十式日

○十六右第四防醫者四人上中下人數一人付八人免馬免

那合四拾八人

以陳歷廿七式日

○十七納戶免貳式人勅定免貳式人上中下人數一人付

又人免馬在也

那合貳拾人

以陳歷十式日

○十八茶五長同朋貳人茶坊貳人掃除坊主三人

同朋茶堂乃以下下人三人免六人免馬七也人免七人

那合十八人

以陳歷十式日

○十九膳免貳式人上中下人數七人付十人免馬免馬

免馬免馬

那合貳拾人

以陳歷八式日

○二十人全指細工或人十人教去人大工十人細工
者又人全指十人人支十或人馬十或也

初合四十八人

以陳屋十八日

○正一患之或人十人支十人免馬二也案馬馬馬
患乃志正人人支四人馬四也

初合四十六人

以陳屋十九日

二十二初之或人十人內中官少人馬一也支馬正也人支
初合或百九人

以陳屋二十六日

二十三中官小者既二人上下一人付八人免支馬是也
初合十二人

以陳屋六日

二十四官左方別苗二人上下十人出馬北也口免六十八人支

馬九也口取才人小初結十也十人

初合百人

以陳屋四十九日

二十又賄去百人取四人上下人教一人付八人免案馬一也
人支九人支馬三也

初合又十人

以陳屋二十日

廿六去以同付上下人教十二人支馬三也三人
初合又十人

以陳屋十日

廿七去去以以或人上下一人付三人免去人人是也
十人支馬六也

初合四十六人

以陳屋十四日

廿八去去去三十也日馬四千儀案候



旗本人数合式千八百八十四人

惣人数合を万八百拾四人也

陣在処合四千六百六十九間

旗本千四百九百
十箇分三千百六十九

八

○九 右之陣取軍法又ヶ象

一 左之面より陣取二組と二の先とを内より陣取る
 二 組次一より先とを右に脇より陣取二組と右
 の内より陣取二組合四五と二の脇より先とを内
 陣取より先より陣取四五と旗本より是陣と四五
 指陣と二に脇の陣とを内より陣取外の陣より
 陣取二組は陣取より内陣取陣を惣二組より
 又旗本は是陣二組は(志)より陣取より可成也

二 介張へ向ふ村を先方の一先と正面より門より向
 右より一先は右に脇より門より可成又は右に陣
 取たり二の先は右の脇より門より可成右より二
 此先は正面より門より向ふくの下より向ふ
 の陣法より或は我石をより取陣と向ふより
 さうさうせりつるなり

三 左方の一脇は右の先より門より介張より向
 その法より先より門より向ふ二脇はなり
 四 中より先より二より先は陣取より脇の陣取先
 是陣と先より先より先より先より先より先
 右に脇は是陣と右に脇は中より門より向ふなり

乃約城力の固より城へ正面の門より出給ふべし也
又大將おほひて後を智るの二組旗本是將と組
て右左の脇門より出給ふべし又右より出給ふべし
陣取二組は之を可為は陣也

右之條々新兵一万余之人救ふべきの條地
取らば一隊は陣取ありて他八隊は戰可用
之陣法也地取廣くしては連隊と用又向
大軍無二之合戦と可相討の可為各別也

營法

松ヶ營乃行乃移る所陣動て為行行移る
是法營法といふなり

五行營 八行營 小營 大營 連營 山營
相陣營

營用法

地形より山と谷と制と人救より山と谷と
人救配 陣取 柵欄 大行筒之角 うちまわ
肉りりり うちまわき うちまわき かのなり 二のかり
合ふ 陣取あり
心づき ありり ありり ありり
川より 川より 山より 山より
見切所 宿伏場 水と波 薪と石
臨陣の法

